

令和6年度 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

教育目標	～ものづくりの心をつなぐ人づくり～「豊かな人間性と高い専門性を持ち、産業界の発展に寄与できる実践力のある工業技術者の育成」 (1) 校是「根性・協調・純真」のもと、郷土を愛し地域社会の担い手となる気概を育成する。 (2) 新しい時代を築くために必要な変革と挑戦する心、および目的をやりぬき力を育成する。 (3) 技能を身につける過程において、心・技・体を鍛える「匠のものづくり」を実践する。 (4) 科学的根拠に基づいたものづくりを推進し、科学技術の進展や環境・エネルギー問題に柔軟に対応できる人間を育成する。 (5) 健康と体力の増進に努め、感性豊かでたくましく、心やさしい人間を育成する。
-------------	--

重点目標	【全般】 (1) 産業系高校フューチャープロジェクトの充実を図る。 (2) 山形工業高等学校産業教育連携協議会（山工コンソーシアム）との連携強化を図る。 (3) 特色や魅力の焦点化および広報戦略により本校への志願者増を図る。
	【学習指導】 (1) ICT機器を活用した授業改善に努め、主体的・協働的な学びによる確かな学力を育成する。 (2) 学び合ったことを生かし合い、その成果を地域に発信する。 (3) 地域社会の課題やSDGsをテーマとした教育活動を通して探究的な学びを充実させる。 (4) 地域、企業、大学等と連携した「社会に開かれた教育課程」を実践し、専門性の深化を図る。 (5) ものづくり関連大会や資格取得に積極的に取り組ませ、高度な工業技術・技能を習得させる。 (6) 専門性を身につけるための基礎学力と学習習慣の定着。
	【進路指導】 (1) キャリア教育を通して勤労観・職業観を養い、主体的に進路を選択させる能力を育成する。 (2) 高い進路目標を実現させるため、学年・学科・教科・進路指導部の具体的な連携を強化する。 (3) 県内の大学・短大等（山形大学、東北芸術工科大学、県産業技術短大等）への進学者を増やす。
	【生徒指導】 (1) 自分の存在や生き方を大切にしながら、他者のいのちや生き方を尊重する姿勢を育成する。 (2) 「いじめ防止基本方針」に基づき、早期の予防・発見・対応に努め、いじめのない学校づくりを推進する。（学級担任だけに負担や責任を委ねることのない組織的な対応） (3) 基本的生活習慣の確立と公共心やマナーを養い、社会の一員としての意識向上を図る。 (4) 学級活動や生徒会活動・学校行事・ボランティア活動等に主体的に取り組む態度を育成する。 (5) 部活動に積極的に取組ませ、豊かな人間性や連帯感、向上心等を育成する。 (6) 地域社会をフィールドとした生徒会活動を通して、伝統校としての誇りを育む。
	【学校保健・学校安全】 (1) 生徒の心身の状況を日常的に観察し、全職員が共通理解を持った指導を実践する。 (2) 教室や校舎内外の衛生環境を日常的に点検し、学習環境の整備・保全とその美化に努める。 (3) インクルーシブ教育システムの考え方を踏まえた特別支援教育の充実を図る。 (4) 生徒が安心して登校できる学校づくりに努め、出席率の向上並びに皆出席者数を増加させる。 (5) スクールサポート委員会との連携により、悩みを抱える生徒のケアに努める。
【その他】 (1) キャリア教育・SDGs・ボランティア活動等を通して、地域とつながる学校づくりを推進する。 (2) 学校に活力を与える部活動やものづくり活動の充実を図る。 (3) 一人一台タブレットや校務支援システムを活用し、校務の効率化を図る。 (4) コミュニケーションを大切に、ハラスメントの無い、より動きやすい環境づくりに努める。	

評価基準	「A」：達成(ほぼ当てはまる)	「B」：概ね達成(やや当てはまる)	「C」：やや不十分(やや当てはまらない)	「D」：不十分(ほとんど当てはまらない)
------	-----------------	-------------------	----------------------	----------------------

番号		自己評価			学校関係者評価	総括
		具体的方策と指標・基準等	目標達成状況及び達成に向けた取り組み状況と分析	達成度		
1	全般	(1) 本校への志願者増のため、全科において中学生体験学習を1回以上行う。また、新しいプロジェクトを山工コンソーシアムでの助言を頂きながら具体化する。【新構想・工業科】	各学科1回以上の体験学習会を行った。参加者は機械技術科200名、電気電子科生徒36名保護者18名、情報技術科30名、建築科9名、土木・化学科19名であった。また新しい山工元気プロジェクトとして「蔵王温泉イノベーション」を立ち上げ、蔵王温泉観光協会への提案と現状の調査を行った。	A	体験学習会の開催時期を検討し、参加者数の向上を図る。山工元気プロジェクトは初年度であり、学校の活動として大きな成果を得るには多少時間を要すると思われるので、焦らずに事業を継続していきたい。	・体験学習会の参加者が学科によって大きく開きがあるが、周知方法等に違いがあるのか。 ・山工元気プロジェクト「蔵王イノベーション」初年度の具体的成果の評価はどのようなものか。 ・SNS、ホームページの閲覧回数などのように推移しているか。 ・専門高校であるので資格取得に重きをおいているのは当然だが、生徒の探究心を向上させる取り組みはできないか。 ・具体的方策と取組状況にできるだけ数値目標を定めて盛り込みたい。 ・女子生徒からなかなか選ばれない傾向にあると思うので、女子生徒から選ばれるような方法を考えてみればよいのでは。女子生徒の活躍も話題になっている。 ・1年生向けに行った入学のきっかけに関するアンケート結果は公表しないのか。アンケート結果を踏まえた取り組みがあれば教えてほしい。 ・学校評価のアンケート結果はホームページには載せていないが、さくら連絡網で学年別に保護者・生徒に結果を公開している。SNS等はターゲットを中学生、その保護者とし、業者と相談し製作している。1年生のアンケートでは本校のSNSを見たことがある生徒は6～7%だった。 ・本校への志願倍率の低下は学校経営にかかわる問題である。年度ごとの取組みと志願倍率の推移を併記した様式があればいい。
		(2) 山形工業高等学校産業教育連携協議会（山工コンソーシアム）を設置し、学校評議員会と並行して年2回協議会を開催する。【総務】	6/13,2/18(予定)の2回開催し、各委員より助言を頂くことができた。	A	来年度も2回開催し、助言を頂きながら進めていきたい。	
		(3) ホームページ、並びにSNSにより、県内の中学生ならびに保護者への訴求力のある情報発信を迅速かつ適切に行う。【情報企画】	ホームページは1月から12月末時点で132回の記事を公開、昨年度から開設しているInstagramは64件の投稿をおこない、情報発信に努めた。	A	引き続き情報収集ならびに発信に努め、他分野の職員からも引き続き協力いただきながら全職員で取り組むよう整備を行う。	
2	学習指導	(1) 各教科・学科でICT機器を活用した授業の研究を行い、年1回以上の研究授業と年2回の授業評価により、課題の抽出及び授業の改善につなげる。【教務】	9月～12月に各教科・学科で研究授業を実施することができた。ICTを活用した授業も数多く実施された。授業評価指数は3.63(前期)で昨年とほぼ同様であった。	B	各教科・学科内の連携は勿論のこと、さらに学校全体として、ICT機器を活用した授業展開の研究を更に推進していく。また、授業評価の結果を踏まえ、生徒一人ひとりの理解が更に深まる授業に改善していく。	
		(2) 課題研究や工場見学等、地域・企業・大学等と連携した学習活動を通して、専門性の深化を図る。【教務】	全校課題研究発表会は昨年同様、大視聴覚室からリモートで実施した。産技短連携報告会も実施され講演を頂いた。また、産技短との意見交換会も実施し、今後の活動に向けて様々な意見を交換することができた。1、3年生の工場見学は予定通り実施できた。	A	企業・大学等の教育機関と連携した学習活動を継続し、専門性を活かした探究型学習の深化と共に、自主性や地域への貢献を図る。	
		(3) 工業に関する資格や検定の各科目の目標に応じた取得を目指す。また、基礎力の定着を図るとともに実践力のある生徒の育成を目指す。【工業科】	各科目の目標に応じた資格取得に取り組んだ。主な資格取得は、機械保全技能検定機械系16名、第二種電気工事士40名、基本情報技術者試験4名、2級建築施工管理技士20名、2級土木施工管理技士3名、技能士（化学分析）8名となった。	A	生徒が自主的に資格取得へ向けた学習へ取り組むよう、指導を継続する。	
		(4) 講習やコンテスト、SEPS（山形大学主催スーパーエンジニアプログラミングスクール）等への参加により、より高度な工業技術・技能の習得を目指す。コンテスト、競技会等各科入賞1つ以上を目標とする。【工業科】	SEPSへ参加（情報技術科）、各種大会等での入賞が機械技術科5、電気電子科2、情報技術科3、建築科2、土木・化学科3と目標をクリアできた。	A	参加するコンテスト、競技会等を選定する検討を継続する。	
3	進路指導	(1) キャリア教育実践プログラムに基づいた36ヶ月プランの実行、キャリア・パスポートの有効活用により、職業観や勤労観を育み、生涯にわたる多様なキャリア形成に必要な学びを身につけさせる。【進路】	36ヶ月プランに基づき計画通りに実施することができた。特に職業観や勤労観を醸成する意味で、外部講師を招いての進路講話や企業見学インターンシップなど多様なキャリア形成を学ばせることができた。	A	ポートフォリオの観点から生徒に学期毎「振り返り」をキャリア・パスポートでさせる必要がある。来年度は「振り返り」をさせる機会を、更に計画的に取り組めるように改善したい。	
		(2) 進路実現に向けて、外部模試の事前・事後指導やICT活用により、学年・学科・教科と連携し、全職員で基礎学力や学習習慣の定着を図る。【進路】	学年と連携して外部模試の事前指導を強化することができた。しかし、事後指導における基礎学力のフィードバックが今後益々必要である。	B	進路実現のため基礎学力や学習習慣の定着が必要であり、「高校生のための学びの基礎診断」などを活用しながら施策の検討を要する。	
		(3) 山工コンソーシアムの協力を得ながら地元企業連携や高大連携を密にし、社会人講話、工場見学、大学の出張講義、卒論発表会、SEPS等への参加により、最新の科学技術や環境問題、エネルギー問題に触れるとともに地元の企業、学校の良さを感じさせる。【進路】	山形大学の出張講義を2回実施（理学部69名参加・工学部85名参加）、産技短との課題研究の連携などを通して、高水準の技術に関する知識の育成を図れた。また、工場見学などを通して、実施の現場における技術の把握などを認識することができた。	A	高大連携を更に強化しながら、最新の科学技術や環境問題・エネルギー問題に触れさせ、地元企業の良さや県内の進学先の学校に対する理解を深める。	
4	生徒指導	(1) 道徳心や倫理観を養い、自他のいのちや生き方を大切にする姿勢を育成する。【生指】	講話や生徒会活動等を通して、道徳観や倫理観を養うことができた。	A	次年度以降も講話や生徒会活動等を通して、生徒が自らの生活について考え、学ぶ機会を計画する。	
		(2) いじめアンケート等を定期的実施し生徒の実態把握に努め、問題行動の未然防止に組織的に取り組む。【生指】	予定通り実施することができ、面談も実施した。	A	次年度もアンケートを年2回実施すると共に、学年団や部活動顧問との連携を密にして未然防止に努める。	
		(3) 自転車安全講話と自転車点検、情報端末機器の利用や公職選挙法等に関する講習会を実施し、マナーやモラル指導を徹底して公共心を養う。【生指】	安全講話や交通安全委員会の呼び掛けを実施し、交通事故発生件数を昨年度より減らすことができた（13件→9件）。自転車通学時のヘルメット着用率は4%程度に留まった。またSNS上のトラブルに注視し、マナーやモラルについての指導を徹底した。	B	交通ルールの遵守とSNSとの付き合い方を学ばせるため、街頭指導、全体集会等を実施して指導を重ねていく。また、自転車使用時のヘルメット着用について、生徒、保護者への呼び掛けを行う。	
		(4) 学級活動や生徒会活動、学校行事では1人1役以上を担い、またボランティア活動への積極的な参加を促す。【生指】	地域との交流を深めるため、生徒会を中心に多くのボランティア活動に参加した。また、ボランティアの情報を適宜生徒に提供した。	A	訪問ボランティアを中心に活動の場を広げながら、より多くの機会を生徒へ提供する。	
		(5) 部活動を積極的に取り組み、全国大会出場30名以上を目指す。【生指】	各部とも積極的に活動に取り組み、全国大会では柔道個人100kg級で3年（松田擁）が5位入賞と優秀な成績を取った。目標には届かなかったが、強化部を中心に、団体・全国大会へ延べ24名が出場することができた。	B	部活動への積極的な参加を奨励するとともに、有意義で充実した活動を体験させ、部活動だからこそできる貴重な経験があることを実感させる。顧問の連携を密にし、有効に施設を使用する。	
		(6) 生徒会活動を活性化するとともに各種行事における自主的・主体的な活動を展開させる。【生指】	大山工祭やクラスマッチなど生徒達の想いを可能な限り実現するなど、学校生活を充実させる成果を上げることができた。	A	校則の見直し等の検討を進め、生徒自身が率先して課題に取り組むことで、自主的な活動をさらに発展・継承させていく。	
5	学校保健・学校安全	(1) 校務支援システム等を活用して日常的な生徒の健康状況や精神状況を観察・把握し、生徒が安心して学校生活が送れるよう支援する。【保健】	さくら連絡網と電話での直接確認との併用も定着し、生徒の健康把握もスムーズに行われ担任業務の軽減が図られた。	A	生徒の健康状況や精神状況を把握及び共有するため担任を中心に教職員間のコミュニケーションをより高めている。	
		(2) 『YAMAKO 7 RULES』を基に、生徒・職員が一体となって感染症予防や衛生環境の向上に努める。【保健】	『YAMAKO 7 RULES』に基づき感染予防や衛生環境保全が図られた。教室の換気環境が優れていることと生徒の意識の高さから学校行事後の感染拡大も最小限に抑えられた。	A	長期休暇後の感染者数を抑える為、本校のハンカチプロジェクトを推進し個人の意識の向上に努める。	
		(3) 生徒保健委員による清掃点検活動や、年8回の大掃除と年4回の清掃強化週間を通して学習環境の整備・保全とその美化に努める。【保健】	生徒保健委員会のデジタルサイネージ活用に加えて清掃チェック活動を実施して学習環境の整備・保全とその美化を生徒へ呼びかけた。また、水回り周辺の美化にハンカチプロジェクトの取り組み効果が表れてきている。	A	生徒の自主性を尊重してより活発な活動を目指す。また、清掃チェック活動を軌道に乗せて学習環境の整備・保全とその美化により努める。	
		(4) インクルーシブ教育システムの考えを踏まえた特別支援教育の充実を図るため、スクールサポート委員会やスクールカウンセリングを毎月1回以上開催する。また、全職員の知識と理解を高めるため研修会を開催する。【保健】	スクールサポート委員会（SSC）やスクールカウンセリングは計画通り実施した。また、PTA保体部活動費より控出しスクールカウンセリングを一回追加実施した。SSCでスクールカウンセラーからアドバイスを受けることで生徒のサポート形態も充実した。	A	インクルーシブ教育システムの理解を深める校内研修会の実施と外部研修会への積極的職員派遣の実施。PTA保体部活動費増額によるスクールカウンセリング実施回数増。	
6	その他	(1) マナーアップ運動や授業参観、東北高P連山形大会への参加等を通じてPTA活動の充実を図り、地域の行事やボランティア活動にも積極的に取り組む。【総務】	春季マナーアップ運動、救急法講習会、授業参観など計画通り実施した。また、東北高P連山形大会、大山工祭にも多数の保護者に参加していただいた。	A	活動方法や内容、実施時期等も検討しながら、例年通りの活動をしていきたい。	
		(2) 校内無線LAN「YELL」を拡充し、教職員用一人一台端末を使用したペーパーレス化の職員会議ができるようにする。【情報企画】	県の事業によりアクセスポイント7台が追加され、今年度1月より職員会議のペーパーレス化が実現できた。	A	今年1月よりクラウドサービスを用いた朝会のDX化を開始した。整備いただいた環境を活かし、今後もコミュニケーションの迅速化や活性化を図る。	
		(3) 不祥事根絶の取組みとして職員研修等を実施して綱紀粛正を図るとともに、ワーク・ライフバランスが取れた健全で明るく活気ある職場環境づくりに努める。【校内倫理委員会】	6月18日に校長が主催する安全運転研修会、1月8日にハラスメント及び不祥事防止の職員研修会を実施した。事あるたびに、校長から不祥事防止の注意喚起を呼び掛けている。時間外勤務時間がR2～5年度よりも多い傾向にある。職員数8名減により、特に校務分掌に関する一人当たりの業務量が増したと考えられる。	B	普段からの声掛けにより同僚性を高め、随時、不祥事の事例を紹介・共有することで、各自が自分事と捉え、職員の不祥事防止に対する意識を高める。校務のDX化等により業務効率の向上を図るとともに、業務方法の見直し、改善を継続する。	